

学校評価総括

本校では、毎年「より良い学校づくりのためのアンケート」を実施しており、今年度も、生徒、保護者、教員に対しアンケートを行った。質問は16項目あり、「教育目標から」「めざす教師の姿から」「重点項目から」の3つの柱を中心に構成されている。「教育目標から」は「本校の目指す生徒像」に関する項目（あ 挨拶、い 意欲、う 美しい環境、え 笑顔、お 思いやり）となっている。

教育目標に関係する項目①～⑤について、保護者評価では4項目の数値が0.1～0.2ポイント増、生徒評価の2項目の数値が0.1ポイント増加、それ以外は昨年と同様の数値だった。②「生徒は、意欲を持って学習や運動に取り組んでいる」という項目では（生徒 3.5→3.5、保護者 3.3→3.5）という高い結果が出ている。これは、コロナ禍の制限や対応が緩和され、授業や行事などの活動を保護者の方に見ていただく機会が増えたためではないかと思われる。一方で、職員評価は全項目で数値が下がっており、特に②「生徒は、意欲をもって学習や運動に取り組んでいる」では、大きく数値が下がっている。これは職員がコロナ禍の制限緩和に伴い、高く設定した目標と実際の支援や指導内容との乖離が起きていると思われる。職員には生徒理解と、その理解が基になった指導が求められる。保護者評価の数値が下がった唯一の項目が⑥「職員は、生徒理解に努め生徒と共に行動している。」（生徒 3.5→3.6、保護者 3.5→3.4）であり、今後も生徒理解と支援を丁寧に進めていけるよう、研修を行うなどして改善を図りたい。また、⑤「生徒は、思いやりや優しい心をもっている」（生徒 3.4→3.5、保護者 3.4→3.5）では、生徒、保護者ともに評価が上がっており、日々の教育活動の結果というだけではなく、家庭や地域などの温かな関わりが前提となり、数値につながっていると言える。

学習面では、昨年と同様に、「自分の考えを発言することや、既習事項を活用して更に難しい課題に取り組むこと、論理的に説明することを苦手としている生徒が多い」という課題があげられる。各教科や行事を通して、自分の考えを表現したり、考えをまとめたりするなどの活動を行っていく必要がある。また、⑪「誉田中は、学力の向上を目指して活動している。」⑫「誉田中は、家庭学習の習慣化のための指導・支援をしている。」の保護者項目は他の項目に比べても低い数値であり、家庭学習の習慣化と合わせて学力をどのようにつけていくかが課題である。例えば、ギガタブを活用し、ドリル学習を行うなどの支援も取り入れたい。そして、わかりやすい授業、学びたくなるような授業への取組が欠かせないことはいままでもない。

中学校生活3年間で行われる様々な経験は、生徒の成長に大きな影響を与える。学校行事を通して、人間関係を培い、集団への所属感や連帯感を深め、学校行事を協力して行うことで、本校の目指す生徒像の意欲や思いやりの心、自主的、実践的な態度を育てることができると考え、誉田中学校では行事に力を入れている。今年度も、保護者の理解と協力を頂き、行事を行ってきた。その結果、今年度も⑬「誉田中は、学校行事を通じて生徒の活躍の場を設けている」（生徒 3.7、保護者 3.7、職員 3.8）では、生徒、保護者、職員とも高評価であり、学校の取組を認めていただいたと考える。

誉田中学校は、保護者の方や地域の方に支えられている学校である。学校行事においても、多くの方々にご支援いただいた。このように行事を行うことができるのも、地域や保護者の方々に学校経営をご理解いただいているからこそだと思う。これからも、保護者の皆様の期待に応えられるよう教育活動に邁進し、生徒と共に成長し続ける教師でありたいと考える。